



# 2001年度 ユネスコ小渕恵三研究奨学金 給費研究員研究業績

UNESCO/Keizo Obuchi Research Fellowships  
Programme in 2001: Results Achieved

教育の原点は、「生きる力」、「助け合う心」  
そして「自然を慈しむ気持ち」にあると信じます。

小渕恵三 内閣総理大臣  
平成十一年一月十九日  
第百四十五回国会施政方針演説より



松浦晃一郎ユネスコ事務局長と小淵恵三総理大臣  
2000年撮影

---

# 序 文

小渕恵三元首相は、次の時代を築く人々の力を堅く信じていました。彼は私に、どの国においても成功の鍵は、その国の人材の育成にあり、未来は若者によって産み出されるので、特に若い世代に資源を投資し、強化する事だと常々語っていました。私は、この信念を彼と共有しましたし、今でも共有しています。

私は、この彼の信念を共に記憶に留め、敬意を表すために、2001年より毎年発展途上国および移行期にある諸国から給費に値する候補者を募り、その中から、日本国政府の好意により提供された基金から20名の研究者に授与している奨学金をユネスコ小渕恵三研究奨学金と命名しました。

この奨学金の目的は、小渕恵三元総理大臣が献身的な働きをされた、「環境」、「異文化間対話」、「情報通信技術」および「平和的紛争解決」という開発分野で行われている、革新的で創意に満ちた修士課程以降の研究を支援することにあります。

小渕恵三氏は、全世界の人々に高く評価された誠実、謙虚そして高潔と言った美德を体現した精力的な指導者でした。彼は、三十六年にわたり、信念を持って献身的に実行する政治家として政界で働きました。その間、彼は後日広く知られるようになった、良き聞き手、疲れを知らない合意形成者としての能力を磨き、また、全人類のために、平和の実現、より明るい未来の実現に向けて尽力されました。

一人の人間としても、彼は配慮の人であり、謙虚な人であると同時に、家庭人として愛し、愛される夫であり父でありました。

私は、長きにわたり一実際、私たちの中学時代から四十年間にわたり一彼を個人的に知ると言う大いなる榮譽に浴しましたが、私たちの友情は生涯変わることなく、私の彼に対する敬愛の念は、決して留まることを知らず、常により強くなっていきました。2000年5月14日の彼の急逝後も、私たちの友情、私の彼に対する敬愛の念は不変です。

この小冊子は、2001年度に彼の名を冠した研究奨学金を授与された若き研究者達の成し遂げた業績の概略を紹介する目的で作成されました。この小冊子を、彼との良き思い出、素晴らしい指導者への敬愛の念、そして、小渕恵三氏の平和と開発への多大な貢献に対する感謝の念をもって、小渕家の人々に捧げます。

2003年5月14日  
ユネスコ事務局長  
松浦晃一郎





小渕恵三首相

---

# 小渕恵三氏と ユネスコ小渕恵三研究奨学金について

小渕恵三元総理大臣は、1937(昭和12)年6月25日に群馬県中之条町に生まれ、惜しくも2000(平成12)年5月14日に62歳で逝去されました。

政治家の子である小渕氏は自分も政治家になることを決意し、国会議員となり、優しさのこもった声で語る、カリスマ性を持った、謙虚で誠実な人として知られるようになりました。

彼は模範的な国会議員、閣僚との評価を築き、また、特に秀でた交渉能力を発揮しました。

三十年以上国会議員を務め、1997年から総理大臣に選出される1998年7月にかけては、外務大臣を務めました。

小渕氏は、国際舞台においても、開発問題に対する取り組みと、日本を、社会経済開発の更なる進展を目指す国際社会の努力の強化に取り組む国々の最前線に置こうという決意により知られるようになりました。

日本国政府は、発展途上国における人材育成の強化をユネスコと協力して実行しています。具体的には、日本国政府の信託基金とユネスコが共同して、2001年から四年間にわたり、毎年20名の研究員に研究費を提供する研究奨学金プログラムという形をとり、故小渕恵三氏を記念して行われています。

小渕恵三元総理大臣の精神、そして、未来は若者によって産み出されるという彼の信念を生かし、尊重するという観点から、この奨学金は発展途上国、特に低開発国からの、下記の分野における研究を熱望し、給費に値する応募者に授与されています。

この奨学金の目的は、小渕恵三元総理大臣が献身的な働きをされた開発分野であり、且つ、ユネスコが特に関心を持つ分野における革新的で創意に満ちた修士課程以降の研究の支援にあります。その分野とは以下の四分野です。

**環境**  
**情報通信技術**  
**異文化間対話**  
**平和的紛争解決**

---

## 応募資格

応募者は、以下の基準を満たさなければならない。

選考に付される候補者は総て、ユネスコに加盟する各当該発展途上国の国内委員会の推薦がなければならない（個々人による応募は受理されない）。

応募者は、自国外で上記特定四分野の一つにおいて知識を深める研究を行うことを希望する修士号または博士号（あるいは同等の学位）を既に取得している研究者であること。

応募者は40歳以下であること。

応募者は帰国後、自国に顕著な貢献をなすことを期待できる、高度な知性を有する有望な者であること。

給費研究員は、自国外で受け入れ先研究機関の学術指導者の下で研究を行うこと。

## 給費研究員の選定方法 および支給額

選考委員会は上記四分野における専門家から成り、ユネスコ事務局長による最終決定に付すべく推薦を行う。給費研究員の選定は、各自の能力およびユネスコ小淵恵三研究奨学金の支給目的に基づき行われる。

国外での研究費用を賄うため、給費研究者一人当たり7500米ドルが支給される。

---

来るべき新しい時代が、  
私たちや私たちの子孫にとって  
明るく希望に満ちた  
世の中であるために、  
「鬼手仏心」を信条とし…  
叡智を結集して  
次の時代を  
築く決意であります。

小淵恵三内閣総理大臣

平成十年八月七日

第百四十三回国会所信表明演説より

---

# ユネスコ小渕恵三 研究奨学金の成果

今日までにユネスコ小渕恵三研究奨学金は以下の貢献を行っています。

- ユネスコの人材育成活動の強化
- 開発技術水準に関する知識の向上
- 発展途上国間の知識の伝達および共有、情報交換および技術協力の促進
- 当機関の管轄する数々の分野における革新、研究および情報の支援
- 連携と交流の強化増進
- 帰国後、国外で修得した知識の関係者との共有による「乗数効果」の確保
- 受益国と受入国間の友情と国際理解および平和の育成

この小冊子の目的は、2001年度の第一期給費研究員20名の行った研究の概略を紹介することにあります。

この小冊子には、各研究員が誰か、どこで何を研究し、何を達成したかが記されています。



世界でも最も地雷被害者の多い国の一つ、  
カンボジアで地雷探知機を試す小渕首相  
平成12年1月11日撮影

「・・・対人地雷全面禁止条約の締結に当たっては、・・・外務大臣として・・・  
敢然と署名をされ・・・このことは、平和を何よりも愛し、人類愛に燃えた  
政治家小渕恵三君の特筆すべき決断でありました。」村山富市元首相

環境を  
保護してゆくには、  
…  
この問題を  
持続可能な  
開発という  
より広範な課題の  
一部としてみる  
必要があります。  
また、この極めて  
重大な課題は、  
環境保護だけではなく、  
人権尊重、  
民主主義の原則、  
貧困克服のための  
国際協力、  
正義と公正の  
実現の促進、  
そして、  
文化および生物の  
多様性尊重の問題も  
含んでいます。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長  
平成14年12月29日  
タイのチョンブリ県サッタヒーブ、  
ハドヤオで開催された第20回世界  
スカウト・ジャンボリでの世界開発  
村の除幕式の際に

大量生産、  
大量消費、  
大量廃棄という  
…社会の在り方は、  
地球環境に  
大きな負荷を  
かけております。  
こうした社会の  
在り方を見直し、  
生産、  
流通、  
消費、  
廃棄  
といった  
社会経済活動の  
全段階を通じ、  
物質循環を  
基調とした  
「循環型社会」を  
構築しなければ  
なりません。

小淵恵三 内閣総理大臣  
平成十二年一月二十八日  
第四百七回国会所信表明演説より

## 研究員の言葉

この研究奨学金のおかげで、環境保護地区内での環境保護と観光を結びつける最善の管理運営方法を知ることができました。

ユネスコ小淵恵三研究奨学金を授与くださり、ありがとうございます。この地方では水は貴重で、この研究の成果は、開発途上国のエンジニアが、より良く産業廃水を管理、処理する助けとなるでしょう。

この研究奨学金により整えられる教材は、科学的研究成果として草の根レベルで地元の人々に還元される予定です。

私は、自己の科学的そして個人的な能力、独立した判断を行うための技能と能力、批判的な思考、それに、倫理的な論法を発展させる機会を与えてくださったユネスコと日本国政府に心から感謝いたします。



給費研究員： ヴィルマンテ ヴィシュニアウスカイト  
Vilmantė VYŠNIAUSKAITĖ  
受 益 国： リトアニア  
研究実施国： スウェーデン  
  
出 生 日： 1975年1月20日  
出 生 地： リトアニア、ヴィリニュス市

#### 最終取得学位

リトアニアのヴィリニュス大学にて環境研究（1998～2000年）により科学修士号取得

#### 学術業績

- 2001年2月24日 *Nitrogen Removal from Municipal Wastewater*  
(市町村廃水からの窒素化合物の除去) :  
Report for the Fourth Conference of Lithuanian Junior Scientists  
(第四回新科学者会議用報告)。
- 2000年 *Investigations of Biological Phosphorus Removal from Wastewater*  
(廃水からの有機リン化合物の除去に関する研究) : 修士論文。

#### 研究機関

スウェーデンのカルマー大学テクノロジー学部

#### 研究原題

*Biological Nitrogen Removal from Wastewater and Leachate*

#### 研究期間

2001年9月から2002年4月

#### 連絡先

vilmante.vysniauskaite@ap.vtu.lt

## 廃水および浸出水からの有機窒素の除去

私は異なる汚染物質の除去、特に化学的酸素要求量 (COD) と生物学的酸素要求量 (BOD) およびアンモニア窒素 ( $\text{NH}_3\text{-N}$ ) の廃水および浸出水からの除去についてスウェーデン王国のカルマー大学で若き研究者チームと一緒に研究を行いました。

過去十年間に、廃水を処理するための様々なタイプの低技術による最適な浄化方法に関する多くの研究、実証試験および実用試験が行われてきました。汚水処理湿地は低技術処理システムで、通常複数の処理を行えるようになっており、その複数ある処理の一段階として何らかの土壌による処理がしばしば行われます。

リトアニアでは、こうした廃水と浸出水を浄化するための汚水処理湿地は未だ普及していません。

今回の研究では、アアルドゥラバル Aardlapalu 廃棄物埋立地 (エストニア、タルト郡) の浸出水の処理に泥炭を濾過媒体として使用する可能性について研究しました。同廃棄物埋立地から出た浸出水を実験室に搬入し、曝気処理後、二種類の泥炭フィルターにより濾過を行いました。この濾過処理の前と後で浸出水の窒素化合物、COD および BOD の濃度の測定を行い、また、この濾過に使用された泥炭中の浸出水の流れと化学的変換に関する研究も行いました。Aardlapalu 廃棄物埋立地の浸出水の浄化方法として、汚水処理湿地といった低技術システムを選んだのは、同埋立地を取り巻く泥炭地が、天然、低コストの浸出水処理の最終浄化過程として利用できる可能性があるからです。

この研究の目的は、Aardlapalu 廃棄物埋立地から出る浸出水を処理する濾過媒体として現地に在る泥炭を何も手を加えていない泥炭濾過体 (FB1) のかたちで利用可能かどうかを明らかにすることでした。この濾過体に加えて、別のタイプの (より高い有機物含有量を持つ) 泥炭を濾過媒体として緩く詰めた泥炭濾過体 (FB2) も試験しました。濾過体内の浸

出水の通過経路も、実験による泥炭内の構成物質の変化と合わせて調査しました。この二種類の濾過体は、この実験のために、それぞれ一立方メートルの大きさに作られました。

この実験により、好気性処理は不適切な BOD:N:P 比のために汚染の除去効果が不十分である可能性があることが確認されました。対象汚染物質全般とアンモニア窒素の低減においては、何も手を加えていない泥炭濾過体 (FB1) を通して浸出水を濾過する方が、緩く詰めた泥炭濾過体 (FB2) を通すよりも優れた結果を示しました。しかし、FB1 の濾過水の方が、FB2 の濾過水よりも高濃度の窒素を含んでいました。浸出水の pH は、FB2 による濾過の方が顕著に低減しました。濾過速度は、FB2 の方が FB1 よりも速いという結果が出ました。両濾過体内の湿気の分析により、FB2 の方が FB1 よりも浸出水が均一に通過しており、より高速な FB2 の濾過速度にもかかわらず同泥炭フィルター内に流路は形成されていなかったことが示されました。この濾過実験の前と後で、濾過に使用された泥炭の構成物質の比較を行いました。この比較により、濾過に使われた両タイプの泥炭とも構成物質に変化が生じていることが示されました。

一般的に泥炭濾過による浸出水の浄化の結果は、泥炭の初期構成 (即ち、有機物の含有量、分解率、カルシウム、マグネシウムの濃度、pH 値等)、および、泥炭濾過体の特質 (即ち、密度、水分含有率等) といった幾つかの要因に依存します。しかし、泥炭や土壌といった有機物質を使つての吸着実験の比較には、主にその不均一性と物理化学的特性の多様性のために固有の難しさが在ります。従って、浄化の仕組みを理解するために、さらに研究を行う必要があります。

2002年9月19日

Vilmantė VYŠNIAUSKAITĖ



給費研究員： スィディ ウルドゥ サレム  
Sidi OULD SALEM  
受 益 国： モーリタニア  
研究実施国： ドイツ  
出 生 日： 1963年12月10日  
出 生 地： モーリタニアのF'DERICK

### 最終取得学位

フランスのリヨン大学にて物性科学の論文（1990～1995年）により博士号取得

### 学術業績

*Electro-optic coefficients in  $H^+$  ions implanted  $LiNbO_3$  planar waveguides*  
( $LiNbO_3$  (ニオブ酸リチウム) 平面導波路に注入された $H^+$  (水素) イオンの電光係数) :  
Nucl. Instr. And Methods in Phys. Research B147, 1999, pages 393-398;  
Boudrioua, S.Ould Salem, P. Moretti, R.Kremer, J.C. Loulergue.

*RBS Study of Defect Profiles in Proton Implanted  $LiNbO_3$*   
(陽子注入ニオブ酸リチウム内の欠陥形態のRBS研究) :  
Radiation Effects and Defects in Solids, vol.136, 1995, pp.103-106,  
S.Ould Salem, B. Canut, P. Moretti, J. Meddeb, S.M.M.Ramos, P. Thevenard.

*Damage Induced in  $LiNbO_3$  Single Crystals by GeV Gadolinium Ions*  
(ニオブ酸リチウム内の誘起損傷 : GeVガドリニウム・イオン被照射単結晶体):  
Nucl. Instr. And methods in Phys. Research, 1991.

*Latent Track Formation in  $LiNbO_3$  : Single Crystals Irradiated by GeV Uranium*  
(ニオブ酸リチウム内潜トラックの形成 : GeVウラニウム被照射単結晶体) :  
Radiation Effect and Defects in Solids, vol. 136, 1995, pp.279-282.

### 研究機関

ドイツ、シュトゥットガルト大学 Institut für Computeranwendungen, (ICA1) Physik mit Höchstleistungsrechnern (コンピュータ応用研究所計算物理学-コンピュータ・シミュレーション)

### 研究原題

*The Dynamic of the Sand under the Action of the Wind (Simulation of the Movement of Dunes)*

### 研究期間

2001年10月から2002年2月

### 連絡先

salem@univ-nkc.mr

## 風による砂の動き (砂丘の動きのシミュレーション)

地球の陸地面積の三分の一が、乏しい植生、不足する水、日中の高温により特徴付けられる人を容易に寄せ付けない砂漠であることが広く知られています。こうしたアラビア砂漠のルブ・アル・カリ、インドのタール砂漠、かの有名なサハラ砂漠のような乾燥地帯は、常に様々な分野の多くの人々を惹きつけてきました。

しかし、その美しい景観と極限的環境にも関わらず、砂漠は様々な疑問を提起します。その疑問のほとんどは、地表に対する何らかの作用のために変化する地形に向けられています。こうした作用は風により引き起こされるのですが、その風自体が砂丘の形により攪乱されます。

砂丘の動きは、浸食、堆積、砂の運搬といった幾つかの巨視的現象によって説明することが可能です。微視的には、砂粒と空気の間、砂粒と砂床の間の相互作用、そして、表面這行、跳躍および浮遊といった異なる運搬形態があります。

実に様々な砂丘の形が砂漠の中、海底、そして、火星においても見られ、地球科学者により数多くの分類がなされています。

砂丘の形状は、主に砂の量と年間の風向きの変化に依存します。年間をとおして風が常に同一方向に吹き、全領域を覆うのに十分な砂がない場合には、三日月形の砂丘が形成されます。

今回の研究では、私たちは砂丘の物理モデルについて、より多くを学びました。前回の研究では、既存の膨大な数の論文中に在る測定方法とコンピュータ・モデリングの分野を扱いました。

私たちは連続体モデルの再現性、整合性および安定性を確認するために数値計算を行いました。又、私たちは数値シミュレーションが、砂丘動力学の幾つかの驚くべき側面を理解するのに大変役に立ちえることも示しました。

例えば、これにより自然界に見られる小さい砂丘と大きい砂丘、そして、風の強い地域と弱い地域の砂丘形状の違いは、砂丘の大きさの飽和長に対する比率の違いによる結果だということが分かります。

しかしながら、砂丘の問題に対処するには、研究対象とする各地域あるいは各地区の十分な測定データを得るために多くの作業を行う必要があります。実際、砂丘の動きは、砂（砂の性質、大きさ）、風場（風の方向と強さ）、そして、地質学的環境と条件といった幾つかのパラメーターに依存しています。

私たちは、今後、砂丘上の植生の存在、あるいは、砂丘の前面に位置する障害物の存在を織り込み、この砂丘の動きのシミュレーション用コードを改良したいと思っています。

2002年1月29日  
Sidi OULD SALEM



給費研究員： ファリダ ザイダ  
Farida ZAIDA  
受 益 国： モロッコ  
研究実施国： フランス  
出 生 日： 1976年2月14日  
出 生 地： モロッコ、NADOR

### 最終取得学位

Faculté des Sciences et Techniques de Settat, Maroc : Diplôme d'Études Supérieures Approfondies (DESA) en « Bases méthodologiques de la gestion, de l'analyse et du traitement de l'état de l'environnement » (2000年6月 モロッコ、セッタト校科学技術学部にて「環境の管理、分析および処置の方法論の基礎」により修士号相当を取得)

### 学術業績

*Dosage du plomb dans le lait maternel humain et dans les cheveux de nourrissons par spectrométrie d'absorption atomique électrothermique (SAAE)* (電熱原子吸光分析法による人間の母乳および乳児毛髪中の鉛の測定法) : Les Premières rencontres sur les Déficits Nutritionnels et l'Industrie Agroalimentaire, Faculté des Sciences Dhar Mehraz, Fès, Maroc, mars 2001 (2001年3月モロッコ王国フェズ市の科学部 Dhar Mehrazで開かれた「第一回食品加工産業と栄養欠陥に関する会合」発表), Lekouch N., Zaida F., Sedki A., Berguier M., Nejmeddine A 共著

### 研究機関

フランスのカーン市 Laboratoire d'explorations fonctionnelles "A", Hôpital Côte de Nacre (コート・ド・ナクル病院試験検査室 "A")

### 研究原題

*Biodisponibilité des Oligo-éléments pour les enfants de bas âges au Maroc.*

### 研究期間

2001年12月18日から2002年6月

### 連絡先

f\_zaida@yahoo.fr

## 微量元素の環境および人間の健康に及ぼす影響 (生態毒性学)

### モロッコにおける低年齢児の微量元素摂取量

この研修はフランスのカーン市にある大学病院センターで消化栄養生理試験検査を行っている試験検査室において行われ、ユネスコによりマラケシュ大学内に設置されたりヨンにあるユネスコの微量元素研究所の一分所であるマラケシュにあるユネスコ微量元素センターの活動の一環でもありました。このセンターは、微量元素が環境および公衆の健康に対して引き起こす可能性のある問題を取り扱っています。

ユネスコ小渕恵三研究奨学金のおかげで、私は鉛、ヨウ素、鉄、亜鉛そしてセレンウムといった、公衆の健康、特にモロッコにあるマラケシュ地域の低年齢児の健康に問題を与える微量元素を調査、分析、処理するための技能を修得することができました。この研修中に行った主な研究は以下のとおりです。

生物指標中の鉛の検出。鉛は微量元素状態では重金属で、上述の地域において汚染問題を引き起こす化学汚染物質の一つです。鉛は女性の母乳サンプルとその乳児の毛髪中から、原子吸光分析法、また、その他のICP（誘導結合プラズマ：プラズマ・トーチ）といった極めて高度な技術等により測定できる可能性があります。私たちは、この危険な金属が、同地域内で鉛に曝された人々の両生物指標中に存在をすることを証明できました。

鉄、亜鉛、ヨウ素およびセレンウムの検出。これらの微量元素は、細胞の代謝反応に不可欠な元素です。こうした元素は、ある特定量を必要としますが、過多になると毒性を帯びます。しかし、過少となると欠乏症を引き起こします。こうした微量元素の欠乏に、モロッコでは、その身体的な脆弱性と未成熟性のために低年齢児が最も影響を受けます。こ

の四種の微量元素も、鉛と同じ生物指標（母乳と毛髪）により、ヨウ素を除き、同じ装置を用いて測定されました。ヨウ素の測定には、イオンメーターを使用しました。このようにして、私たちは授乳している母親とその乳児の検査対象者の中から、こうした微量元素が不足している者を特定できました。

さらに、食物が微量元素により汚染されている可能性があり、また、食物中の微量元素が不足している可能性が在り、そして、あるいは又、食べる物が食習慣により影響を受けている可能性があるという与件から、低年齢児に見られる微量元素欠乏を説明できるように、乳児食から得られる、低年齢児の体外と体内における、生体に摂取可能な鉄、亜鉛およびカルシウム量と幼児の健康への影響についても研究を行いました。こうした研究結果は、遠からず科学専門誌に掲載される予定です。この研究を補強し、鉄の欠乏状態を改善し、この地域に見られる低年齢児の貧血を減らす目的で、生体内における鉄の状態改善への効果を研究するために、放射性鉄を含む高分子ペプチドによる同位体元素を用いた研究も行いました。

上記の研究結果に加え、この研修のおかげで、私の論文の分野である健康、環境そして微量元素に関する極めて有益な文献を集め、今回の研究を行う上で好条件を提供していただき、多大な助力をいただきました試験検査室のスタッフの方々と友情と仕事の上での関係を築くことができました。この研修の結果を最も有効に活かすために、この研修中に私が発見したことの一部を国内の学会、国際学会で紹介し、残りを国際学会専門誌で発表できればと思っています。

2002年10月1日  
Farida ZAIDA



給費研究員： マチルド ソ マ リ バ チ ャ ン  
Matilde SOMARRIBA CHANG  
受 益 国： ニカラグア  
研究実施国： チリ  
出 生 日： 1961年8月5日  
出 生 地： ニカラグアのマナグア市

### 最終取得学位

米国テキサス農業工科大学で放牧地の生態系と管理(1995年から1997年)により科学修士号取得

### 学術業績

1999年 Somarriba-Chang, M.A., T.L. Thurow, A.P. Thurow 共著

*Soil erosion and conservation as affected by land use and land tenure, El Pital watershed, Nicaragua.*

(ニカラグアのエル・ピタル流域の土地利用および土地保有形態により影響される場合の土壌浸食と土壌保全)： Technical Bulletin Number 99-3. Soil Management, USAID Soil Management CRSP, Texas A and M University.

2000年 Muñoz, R., M. Somarriba 共著

*Diagnostic of Research in Sustainable Agriculture in Hillsides (ASEL) in Nicaragua Developed by UNA for 1990-1998* (UNAにより1990年から1998年にかけて開発された丘陵斜面における持続可能な農業に関する研究の特徴) (National Agrarian University, Managua, Nicaragua)。

2000年 Palma, S., M. Somarriba 共著

*Evaluation of the Possible Climatic Change over Potential Yield on Corn Crop (Zea Mays L.) in the Pacific Region from Nicaragua* (ニカラグアから太平洋地域における気候変化が生じた場合のトウモロコシ収穫量への潜在的影響の評価)： ニカラグアのマナグア所在の国立農業大学農業経済学学士論文。

### 研究機関

チリのコンセプチオン所在 Centro EULA-CHILE, Centro Universitario Internacional Europa Latinoamérica de Investigación y Formación en Ciencias Ambientales (ヨーロッパ・ラテンアメリカ環境科学研究教育大学国際センター)

### 研究原題

*Potential Environmental Impacts of Tourism Activities in Protected Areas: A View from Nicaragua*

### 研究期間

2001年11月から2002年3月

### 連絡先

farena@ideay.net.ni  
matilde\_99@hotmail.com

## 保護地域における観光活動による環境への潜在的影響

ニカラグアの環境天然資源省(MARENA)環境局は、環境が脆弱な地域において開発計画を実施した場合の各種活動による生態系、経済、社会面への直接的、間接的影響を知るために環境影響評価を行うことが必要であると考えています。

「2001年度ニカラグア環境報告書」は、観光活動の生物の多様性に対する主な脅威として、土地政策の欠如、観光開発計画に対する追跡調査および規制手段の欠如、そして、不十分な残留水の管理を指摘しています。

環境に対するさまざまな潜在的悪影響のため、環境保護地域で展開されるべき観光事業はエコツーリズムの形態だけにすべきだとの提案があります。しかし、極めて貴重な自然のある地域の開発の選択肢として、エコツーリズムの他に、緩衝地帯を設けての冒険観光、教育科学観光あるいは郊外観光といった形態の観光があります。

エコツーリズムは、特にニカラグアのような国においては、環境保護地域における開発問題に対する万能の解決策としてではなく、環境保護地域の土地利用および土地の管理運用の一つとして見なければなりません。ニカラグアにある手付かずに近い天然資源の適切な利用には、環境に対する悪影響を最小限に抑えた観光サービスを開発、維持、運営するのに必要な財源を考慮に入れなければなりません。

エコツーリズムの活動とその影響の分析は、環境保護地区だけに限定するのはでなく、その保護地区に隣接する地域社会の開発計画も含めなければなりません。こうした保護地区近隣の地域社会も含めた均整のとれた開発計画により、宿泊、食事、リクレーション等の観光サービスを環境保護地区の外に展開することが可能となります。このようにし

て、環境保護地区をエコツーリズム活動だけに利用することができます。こうした計画は、ニカラグアでは、多くの場合、経済的に沈滞している地域社会に経済的利益と経済的動機をもたらす得ます。しかし、不運にも、こうした環境保護区に、天然資源が特に豊かで、人々を温かく迎え入れる地域住民が住んでいるのです。

ニカラグアでは、適用される環境保護地区の区分と実際の土地利用の間に矛盾があります。この矛盾の結果、環境保護法の適用と最善な土地運営の実施原則の間に不整合が生じています。従って、ニカラグアで現在使用されている環境保護地区の区分体系を見直す必要があります。

例えば、「厳格な原生保全地区」という区分の場合は、「生息環境、生態系および種を可能な限り乱すことなく保全する」とされていますが、これに対し、どのような管理運営目的を適用できると言うのでしょうか？ これでは、この地区でのエコツーリズム活動を全く許可できないでしょう。

一方、管理された天然資源保護地区は、持続可能な自然生態系の利用を主な目的として管理運営されます。その主目的は地域社会の利益です。この区分はニカラグアの規定の中には存在しませんが、何らかの形で応用できるでしょう。

こうした考え方により、さまざまなエコツーリズム活動を含むような土地の利用を許可できるはずです。

そうすれば、確立された最善の管理運営方法により、保護地域の適切な管理運営を可能とすると同時に、経済的利益を、特に地域住民に、そして、ニカラグア社会全般に与えることが可能となるでしょう。

2002年11月6日  
Matilde SOMARRIBA CHANG



給費研究員： アマール フドゥフドゥ  
Amal HUDHUD  
受 益 国： パレスチナ自治政府  
研究実施国： チュニジアおよび英国  
出 生 日： 1968年9月1日  
出 生 地： パレスチナ領ナブルス

### 最終取得学位

オランダのデルフト所在 International Institute for Infrastructural, Hydraulic and Environmental Engineering (IHE) (土木、水および環境工学国際研究所) (1994年から1996年)で科学-衛生工学修士号取得)

### 学術業績

1996年 *An Assessment on Ground Water Quality and Reverse Osmosis Desalination Plant in Palestine*  
(パレスチナにおける地下水水質および逆浸透法脱塩施設の評価) 修士論文、  
International Institute for Infrastructural, Hydraulic and Environmental Engineering, IHE DELFT,  
The Netherlands。

1993年 *Rainwater Harvesting in Palestine*  
(パレスチナにおける雨水採取) 学士論文。

### 研究機関

チュニジアのチュニス環境技術国際センター

Loughborough University, Water, Engineering and Development Centre, U.K  
(英国ラクバロウ大学水工学水開発センター)

### 研究原題

*Management of Appropriate Olive Mill Wastewater Treatment in Palestine*

### 研究期間

2001年10月から2002年2月

### 連絡先

salem@univ-nkc.mr

## パレスチナにおけるオリーブ採油工場廃水の適切な処理管理

オリーブ油の製造時に、大量の暗色汁が発生します。このオリーブ採油工場廃水(OMW)には、オリーブに起因する水、機械冷却水、オリーブ洗浄水、オリーブ残渣が含まれています。この廃水は、地中海地域で大規模な環境問題を引き起こしています。ここで問題になる毒性効果は、同廃水の特定構成物質の構成比率、即ち、極端に高い有機物質質量(COD濃度が $200\text{kg/m}^3$ にまで達する)とOMWの黒色汚濁の原因である高濃度フェノール化合物(フェノール総量で $8\text{kg/m}^3$ )の存在によりもたらされます。

OMWに含まれているフェノール化合物は、単純フェノール化合物と、単純フェノール化合物のポリマー化と自動酸化により生成される暗色のポリマーの二グループに分けることができます。単純フェノール化合物には高い毒性がありますが、比較的容易に生分解します。これに対してポリフェノールは、毒性は少ししかないのですが、容易には生分解しません。

パレスチナでは、オリーブ採油工場は廃水を処理することなく地下水系に排水します。パレスチナで栽培されるオリーブの90%以上が西岸にある256の採油工場で加工されます。西岸にある全オリーブ採油工場から排出されるOMWの量は、一日に $1000\text{m}^3$ に達するとみられます。

こうした背景から、過去20年間、精力的な研究開発が、環境に悪影響を与えるオリーブ採油工場廃水の処理と廃棄の問題に対する有効な解決方法を特定するために行われてきました。特に近年、詳細な研究がチュニジアとモロッコで行われてきました。

私が提案した研究の目的は、オリーブ採油工場廃水(OMW)の汚染管理により、オリーブ採油工場からの廃水による環境への打撃を軽減

させる実用技術を特定することでした。この研究目的を果たすためには、OMWを理解し、分類することが必要でした。従って、私は以下の2つの目標を設定しました。

- 1) 利用可能で十分に有効なOMWの生物学的処理のためにOMWの特性と酸化の仕方を理解すること。そして、
- 2) OMWに対する現行の処理方法と廃棄方法を調査すること。

上記目的および目標を達成するために、文献収集と、その精査、施設評価、チュニジア(チュニス環境技術国際センター)で行われた実験作業を含む、数多くの活動をしました。

この実験作業の目的は、OMW中に見られるフェノール化合物の酸化とポリマー化に影響を与える要因の特定、および、OMWの管理と処理を容易にする貯蔵方法に関連するOMWの挙動の理解でした。

この研究の中間結果は、二段階工場設計を用いた場合、酸素が貯蔵段階でOMWの酸化に影響を与える主な変数であることを示しています。オリーブ採油工場廃水とOMW中に存在するフェノール化合物の酸化とそれに続くポリマー化の間の関係が、HPLC試験(フェノール化合物が酸化してポリマー化する時に、OMWが黒くなるので)を用いて明らかにされました。酸化したOMW中に見出される高分子フェノール化合物は嫌気処理中のメタン化過程で毒性を持つことも観測されました。さらに、乳酸菌が酸化したOMWを脱色できることも観測されました。

2002年10月22日  
Amal HUDHUD



給費研究員： カミスマハメッドエルマハラウイ  
Khamis Mohammed EL-MAHALLAWI  
受益国： パレスチナ自治政府  
研究実施国： ガザ地区  
出生日： 1966年10月27日  
出生地： パレスチナ領ナブルス

### 最終取得学位

1999年オランダのデルフトにある International Institute for Infrastructural, Hydraulic and Environmental Engineering (IHE) (土木、水および環境工学国際研究所) にて水および環境資源管理で科学修士号取得。

### 学術業績

*Assessment and Improvement of Water Quality in the Gaza Strip*  
(ガザ地区における水質の評価と改善) :  
Palestinian Hydrology Group journal.

2001年3月 *Nitrogen Sources and Sinks in the Gaza Strip*  
(ガザ地区における窒素源と滞留) 科学修士論文。

### 研究機関

パレスチナ領ガザ市所在の Palestinian Hydrology Group (PHG) (パレスチナ水利グループ)

### 研究原題

*Nitrogen Sources and Sinks in the Gaza Strip*

### 研究期間

2001年10月から2002年6月

### 連絡先

el\_ma98@hotmail.com

## ガザ地区における窒素源と窒素滞留

ガザ地区の地下水の窒素汚染を引き起こしている確率の極めて高い農業、および、その他の人類の活動が多々ある。この地区における窒素濃度は、典型的な値は100mg/lから200 mg/l の範囲で、600 mg/lの水準にまで達する所もある。総ての測定値が、世界保健機関 (WHO) の飲料水に対する基準 (45mg/l) を超えている。この地区内の窒素源、損失量および固定化された窒素量を知ることは、この問題を理解し、解決策となりえる手立てをみだすのに不可欠である。

この研究は、同地区内における窒素源となる可能性のあるもの総て (即ち、下水システムからの排出、下水システム、下水システムの無い地区、固形排泄物、農業地域からの漏出、各流通網、イスラエル入植地からの漏出、それに、降雨) と主な窒素流出、及び、固定化された窒素を定義し、特定している。農業における窒素源の増分は、流入窒素 (即ち、無機肥料、堆肥および大気沈着物といったもの) と固定化窒素、及び、灌漑用水を含め、そして、流出した可能性のある全窒素の計算を行った。窒素の主な流出の計算には、収穫された農作物、堆肥と有機肥料からの揮発による大気への流出、植物への吸収、そして、反硝化を含めて計算を行った。窒素バランスは、窒素流入量と流出量の差として計算されている。

研究対象地域における農業と都市廃水が、窒素流入量の主因となっている。農業においては、無機肥料と堆肥が最大の窒素源であると考えられる。固形排泄物、浸出水、上水道網漏出および降雨からの窒素流入は、廃水と農業地域といった他の流入源と比べると副次的であると考えられる。

この窒素バランスの計算によれば、ガザ地区のほとんどの地域で窒素による高度汚染の危険がある。

集約的農業と家畜の飼育が窒素汚染の深刻な危機を産み出しているガザ地区における地下水の水質悪化を阻止するためには、施肥管理が不可欠である。又、下水道網と適切な処理施設による廃水処理の拡充は、窒素汚染を制御する上で重要な一要素である。地下水汚染と帯水層への窒素分の流入を阻止するために、必要とされる全手段をもって行動計画を実行することを強く推奨する。

2002年12月12日

Khamis Mohammed EL-MAHALLAWI



給費研究員： ニック ア ラ ホ  
Nick ARAHO  
受 益 国： パプア・ニューギニア  
研究実施国： 米 国  
  
出 生 日： 1962年3月27日  
出 生 地： パプア・ニューギニアのココダ

#### 最終取得学位

1997年オーストラリアのシドニー大学で考古学修士号取得。

#### 学術業績

1995年 Mark Busse, Susan Turner, Nick ARAHO 共著

*The People of Lake Kutubu and Kikori: Changing Meanings of Daily Life*  
(クツブとキコリ湖の人々：日常生活の意味の変化)

Papua New Guinea National Museum (発行者：パプア・ニューギニア国立博物館)

1989年 J.Chapell, G. Francis, P.Swadling, B.Ivuyo, Nick ARAHO共著

*Late Quaternary Inland Sea and Early Pottery in Papua New Guinea*  
(パプア・ニューギニア第四紀縁海および初期陶器類) :

Archaeology in Oceania (「オセアニアにおける考古学」誌) 24 , pages 106-109。

1991年 Pamela Swadling, Baiva Ivuyo, Nick ARAHO共著

*Settlements Associated with the Inland Sepik-Ramu Sea*  
(内海セピク-ラム海と関連した定住)

Indo Pacific Prehistory Association Bulletin (「インド-太平洋前史協会会報」)11, 92頁から112頁。

#### 研究機関

米国カリフォルニア大学バークレー校考古学部

#### 研究原題

*Study of the Mussau Archaeological Collection at Berkeley*

#### 研究期間

2002年2月から同年5月

#### 連絡先

naraho38@hotmail.com

## バークレーのムッサウ考古学コレクションの研究

この研究の目的は、パプア・ニューギニアの人々に文化遺産を保全することの重要性を教えることを意図し、それに最も適した考古学資料を選択し、その資料を研究し、発表することでした。それと同時に、この研究は、考古学的記録を示し、パプア・ニューギニアの天然資源保全のために、人類の環境との共存の重要性を示すことも意図していました。

そして又、この研究は現在米国カリフォルニア大学バークレー校考古学部に在るムッサウ考古学コレクションを調査することも目的としていました。選択した資料は、グラス・ルーツ（草の根）レベルの人々でも容易に理解できる簡単で読み易い小冊子に収録し、出版し、各学校に配布する予定です。

そうすることで、文化遺産の情報が広く人々に普及するようになるでしょう。こうした小冊子の出版配布の理由は、それにより、より広範な人々に合ったレベルで、より多くの人々に文化遺産の情報を普及させる手段を提供するからです。この種の公衆の認識が、文化遺産の保全と地域環境計画の促進につながればと願っています。

こうした資料は、人々に将来の海洋資源（イカ、カメといったもの）と陸上資源（森林、植物といったもの）の持続的利用のために自分達の自然生息環境の開発と保全のバランスを維持することの重要性を教えるのに利用できます。

隣接地域における考古学上の仕事から得られた成果の一つは、考古学上の記録の中に表されている自然環境を積極的に管理した形跡の発見でした。こうした成果は、パプア・ニューギニアの普通の人々が依存する海洋および陸上環境の将来の計画および管理に関する議論に貢献することができます。

マッサウにおける考古学上の記録は、何千年にもわたり、自然環境と人間の共存が重要であることを強調しています。従って、こうした過去の教訓を、環境管理の責任者だけではなく、グラス・ルーツ、地域の人々、高等学校のレベルで容易に接することができる形で提供することが大切なのです。

2003年6月10日  
Nick ARAHO

私たちは、今日  
「情報富者」、  
「情報貧者」  
と言います…  
情報格差それ自体は  
情報、知識、  
そして、その関連技術の  
利用面での不平等として  
現れますが、  
その根源は  
社会経済的格差と同様に  
文化および教育の  
中においても  
見られます…  
(今日) 連帯、  
他者への思いやりと  
他者との共有の  
精神に基づく  
グローバリゼーションの  
人間化の一大運動を  
築き上げることが  
必要とされております。  
(何故なら、それが)  
知識社会の建設と  
不可分だから  
であります。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長  
平成14年11月13日パリ  
ユネスコ講座のワールド・  
フォーラムで

… 人類を取り巻く  
大きな環境の変化の  
一つとして  
いわゆる  
「IT革命」が  
あります。  
…  
いわゆる  
「デジタル・ディバイド  
(情報格差)」の問題も  
生じており、  
この問題には、  
先進国と途上国との  
格差の問題と  
先進国の国内での  
格差の問題との  
二つの側面があり…  
情報の面における格差が  
経済格差を更に  
大きくしてしまう  
おそれがある…  
こうした  
経済社会のあり方を  
大きく変える  
流れについて…  
忌憚の無い  
議論をし…たい…

小淵恵三総理  
平成十二年二月二十八日東京  
九州・沖縄サミットに関する  
懇談会にいける挨拶より

## 研究員の言葉

ユネスコ小淵恵三奨学金プログラムの枠組の中で研究奨学金を授与してくださったユネスコおよび日本国政府に心から感謝いたします。

この奨学金により、教育科学、特に新技術の分野における研究者になるという夢を実現することができました。



給費研究員： アルナウエドゥラオゴ  
Arouna OUEDRAOGO  
受益国： ブルキナ・ファソ  
研究実施国： フランス  
出生日： 1967年5月14日  
出生地： ブルキナ・ファソのボボーディウラッソ

### 最終取得学位

アルジェリアの Institut de Télécommunication d'Oran (オランの通信研究所)  
(1991-1995年)で通信技師資格取得。

### 学術業績

« *Les systèmes informatiques distribués appliqués au téléenseignement.*  
*Cas spécifique de la mise en oeuvre d'un projet pilote de télé-enseignement au Burkina Faso*  
(遠隔授業へ応用した分散情報処理システム：  
ブルキナ・ファソにおける遠隔授業プロジェクトの事例研究) »  
に関する論文を2003年中に完成予定。

### 研究機関

フランス、パリ第九大学ドーフィン

### 研究原題

« *Les systèmes informatiques distribués appliqués au téléenseignement.*  
*Cas spécifique de la mise en oeuvre d'un projet pilote de télé-enseignement au Burkina Faso* »

### 研究期間

2001年11月から2002年8月

### 連絡先

n\_ankhbayar@yahoo.com  
arounao@yahoo.fr

## 遠隔授業へ応用した分散情報処理システム ブルキナ・ファソにおける遠隔授業プロジェクトの事例研究

サハラ以南の熱帯アフリカにおいては、どこでもそうであるように、大学そして高等教育全般が様々な困難に直面しています。それは、長年にわたる学生数の幾何級数的増加、狭く不十分な講堂、文献の不足、特定分野における教員の不足、こうした全要望を満たすには不十分な資源等々です。

こうした状況が帰結するところは、教育の質の低下、十分な教習の提供不能、困難な学習環境を含む諸問題です。

従って、こうした問題を克服するための手立てを何も講じないなら、サブ・サハラの高高等教育の未来は危機に瀕します。

新たな情報通信技術の出現、そして、何にもまして教授媒体としての同技術の使用が、可能な限りの最大数の学生に大学教育を与え、且つ、大学そして他の高等教育機関における教育の質を改善するという問題に対する「奇跡的解決方法」であると、良きにつけ悪しきにつけ、見られています。今日、多くの大学あるいは専門団体が世界中に提供し、満足のゆく結果を収めている遠隔学習課程が既に幾つもあます。

そもそも、新たな情報通信技術が前述の問題に対する決定的な解決方法を提供すると考えるのは正しいことなのでしょうか？

こうした新技術による解決方法は、既存の機関に取って代わるのでしょうか、それとも、補完するのでしょうか？

そして、こうした新技術が持ちえる最善の優位性をどのようにしたら利用できるのでしょうか？

困難な経済的状況の中で遠隔学習プロジェクトをどのように実行するか？

言い換えると、教育の質、学習環境、そして、自立学習を改善し、同時に最大限の学生に教育を提供するという目標を追求しながら、使用する教授法と財政上の制約を考慮に入れた技術とプラットフォームをどのように選択するか？

私たちが選択した使用技術は、ビデオ会議、デジタル・ビデオ、チームワークそしてバーチャル・オフィスです。

開かれた遠隔学習のためのプラットフォームは、遠隔学習の実施を支援するソフトウェア・パッケージです。この種のソフトウェアは、主に三種類のユーザー（教師、学生、管理者）が必要とするツールと教材遠隔閲覧、個別学習化、そして、遠隔個別指導のための一連の機能を含んでいます。広範に各種プラットフォームを一覧し、比較研究を行った後、私たちは費用、技術、教育方法の間に強度の相関関係があることも浮かび上がらせることができました。

2003年1月2日  
Arouna OUEDRAOGO



給費研究員： アナスタズィ オ ボ ノ ム バ  
Anasthasie OBONO MBA  
受益国： ガボン  
研究実施国： フランス  
出生日： 1961年5月3日  
出生地： ガボン、ビタム

### 最終取得学位

Université Libre de BRUXELLES, Belgique: Diplôme d'Études Spécialisées : Informatique Appliquée aux Sciences de l'Éducation (D.E.S.I.A.S.E.) (1996-1998). (ベルギーのブリュッセル所在の自由大学 (1996-1998年)で教育科学への情報技術応用の専門研究学位取得)。

### 学術業績

*L'Utilisation de l'outil informatique par les enseignants de l'École Normale Supérieure du Gabon, 2001*  
(ガボンの師範学校の教師による情報技術ツールの使用)  
(pour les journées pédagogiques internationales du Sénégal).  
(2001年国際教育日のための論文)

### 研究機関

Institut National de Recherche Pédagogique de PARIS (INRP), Département Technologies Nouvelles et Éducation (TECNE), PARIS, France  
(フランスのパリ所在、国立教育学研究所新技術および教育部)

### 研究原題

« *Les technologie de l'information et de la communication dans l'enseignement secondaire: Nouvelles menace d'exclusion ou nouvelles chances pour les système éducatifs des pays d'Afrique subsaharienne. Cas du Sénégal et du Gabon* »

### 研究期間

2001年10月から2002年3月

### 連絡先

ana\_obono@yahoo.fr

## 中等教育における情報通信技術

### サハラ以南の熱帯アフリカ諸国の中等教育における 新たな取り残しの危機、あるいは、新たな機会 セネガルおよびガボンの例

セネガルとガボンが直面している多くの問題、特に教育システムと教員育成における欠点に関連する問題を解決することを目指し、ガボンおよびセネガル当局は過去三年間、新技術とその教育システム内で果たすべき役割に配慮した広範な改革の導入により、「万人のための教育」に関するダカールにおける「世界教育フォーラム」(2000年4月)の勧告の実施に取り組んできました。そして、そのために学校のインターネットへのアクセスを提供し、従って、学校において様々な関係者が情報通信技術に対して責任を負えるように、両国において重要な政府決定が行われました。

こうした技術について流布している考えは、科学的根拠に根ざしたものであるよりも、憶測によるものの方が遥かに多い現状に際し、この研究は、両国の教育システムにおける情報通信技術の「導入政策」の様々なモデルを分析することから始め、この分野における趨勢、必要とされる決定および選択を支援するような知的貢献をすることを目的としています。この研究は、文献における格差にも注意をむけるもので、ガボンおよびセネガルの教育システムにおける新情報通信技術の統合の主要面を覆う恒常的なデータ・バンクを作ることにも貢献します。

私たちは研究作業を以下の三つの主な部分に分けました。

第一は、論理的および方法論的枠組です。

第二は、対象国における情報通信技術関係の主要問題の概略です。

第三は、情報通信技術を推進する行政当局により立てられた国策と国家戦略です。

2002年5月2日  
Anasthasie OBONO MBA



給費研究員： ニヤムジャブ ダバグドリユジュ  
Nyamjav DAVAGDORJ  
受益国： モンゴル  
研究実施国： 中国  
出生日： 1963年12月8日  
出生地： モンゴル、ウランバートル

#### 最終取得学位

モンゴル技術大学で財政管理(1996-1998年)で修士号を取得。

#### 発表論文

国境のないインターネット環境：日刊紙 Ardyn Erkh 1997年9月15日号。

情報は意味がある：日刊紙 Ardyn Erkh 1999年2月10日号。

#### 研究機関

中国の北京郵電大学

#### 研究原題

*Integrating Multimedia Technology into Training Systems*

#### 研究期間

2001年9月から2002年4月

#### 連絡先

d\_nyamjav@yahoo.com

## マルチメディア技術の教習システムへの統合

マルチメディア技術とは、二つ以上の形態でデータを使用あるいは表現する技術のことです。オーディオとビデオを組み合わせたテレビジョンは、おそらく最初のマルチメディア技術の応用だったでしょうが、それは異なる形態から成るデータを操作する能力を持ち、そして、これを消費者あるいは加入者に直接提供し得る能力を持ち、それが現在の関心に火をつけているパーソナル・コンピュータの出現前のことでした。

世代が新しくなる毎に、より高速になるCD-ROMとともに、より高速なプロセッサが日々市場に流れ込むことにより、マルチメディア技術は興奮に満ちた活発な分野であり続けています。双方向マルチメディア分野で台頭しつつある効果的な人-機械間連携技術があります。ステレオ映像、音声認証、合成音声、触知型インターフェース、マルチ・センサー統合の技術は、活発な研究が行われている分野で、現在の人-機械間の相互連携能力を拡大する技術です。

マルチメディア技術の大規模な応用が行われる可能性があるのは、マルチメディア・データを統合することにより開発された教材を地理的に離れた学生へ経済的に送付する分野です。この方法は、遠隔学習および遠隔教習における重要な手段となりえます。オーディオ・ビジュアル遠隔会議用の幾つかの技術は、遠隔学習へ応用することができます。

マルチメディア・データベース・システムは、新世代のデータベース・システムで、高速なネットワークをとおしてユーザーが様々なメディア形態で蓄えられている情報を請求し、又、同様に統合できる双方向型の統一された枠組みです。マルチメディア・オーサリング・システム (MAS) は、マルチメディア・アプリケーションを創り出すための統合環境を提供する高レベル・システムです。MASにより、研究者は自己のマルチメディア・システムを極めて簡単に構築できます。加えて、その結果構築するシステムの可能性も拡大します。

2002年2月3日  
Nyamjav DAVAGDORJ

文明間対話の探求は、常に普遍的に共有された価値に基づいて行われなければなりません、その一方で各個人および各文化の多様性も守りながら行わなければなりません。対話の推進にあたっては、何よりも先に、恵まれない除外されたグループ、あるいは、地理上の地域の緊急かつ火急の必要性を満たすことを目標としなければなりません。  
(この際、) 民主主義、人権および基本的自由にしっかりと依拠した対話が重要となります。何故なら、真の対話をとおしてのみ、相互理解、和解そして平和の永続的関係を築くことができるからです。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長  
2002年7月3日のパリのユネスコで行われ文明間対話推進に対する聖アンドリュウ国際賞受賞演説

私は、21世紀は、人間中心の社会の世紀としていく必要があると考えております。  
・・・  
このような明日を創るためには、国境を越えて英知が集い、その中から生み出される展望に基づいて、未来に対する確信 (confidence) を共有していくことが何よりも重要です。

小淵総理大臣  
平生十年十二月二日  
「アジアの明日を創る知的対話」  
国際会議冒頭演説より

## 研究員の言葉

私は、ユネスコ小淵恵三奨学金による研究をと  
おして得た情報を、学会レベルでの発表および討  
論を通じて広めてゆきたいと思っています。

この研究奨学金の特別な価値は、実際に、私が  
育った文化、文明とは全く異なる文化世界と文明  
を発見する機会を与えてくれたことです。この  
九ヶ月間は、私の個人的成長、そして、私の精神  
成長の一種の懐胎期間でした。私は、この他文化  
との出会いを提供するという素晴らしい行為に対  
し、私が感謝しなければならない人、日本の前総  
理大臣にして、偉大な文化の人、小淵恵三氏の鮮  
明な思い出を常に胸に抱いています。



給費研究員： イエレナ ドゥルカ  
Jelena DRCA  
受益国： ボスニア・ヘルツェゴビナ  
研究実施国： オーストリア  
出生日： 1971年1月13日  
出生地： クロアチア、ザグレブ

#### 最終取得学位

オーストリア、グラーツのカール-フランツェンス大学にて、  
言語学およびコミュニケーションにて修士号取得（1998年）

#### 学術業績

*A linguistic omnibus: Looking for Universal Language*  
(総括言語：普遍言語を求めて) 修士論文 1998年

#### 研究機関

オーストリア、グラーツのカール-フランツェンス大学

#### 研究原題

*Looking for Universal Language: Verbal versus Visual*

#### 研究期間

2001年10月から2002年7月

#### 連絡先

jelena.drca@blic.net

## 普遍言語を求めて：音声的言語対視覚的言語

「制度的に或いは非公式に組織された社会的産物であり、且つ、観念、意味及び意識の再生産である」<sup>1</sup>ものとしての文化の定義は、文化とは個々人の感興と創意の結果であるという広く流布している考えに対して、文化の制度化された、社会的特徴を強調している。今日、世界の諸文化は、台頭しつつある世界化する超文化により脅かされている。この超文化は、ポスト資本主義社会、ポスト・モダン社会の最終変異形態であり、利益目的からの帰結であり、市場ルールだけにより影響を受け、その中で少数の巨大メディア複合企業体が文化の同質化の動きを進める文化である。今日、文化的多元主義を脅かす主に二つの要因がある。それは、文化情報の商品としての扱いと、技術の台頭ともなう、その結果としての文化の技術への降伏である。

私はフランス語、ロシア語、英語、ドイツ語およびセルボ・クロアチア語の知識により、こうした言語に対する国の文化政策に関する一次資料を参照し、比較することができた。この比較分析には、文化分野に対する立法および財政支援の問題と同様にマスメディアによる文化伝播、そして、グローバリゼーション（世界化）の影響に関する問題を含めた。

さらに、この世界超文化の特徴を、その起源に関し、その台頭を持続させているメカニズムと合わせ、その構図の描画を試みた。最初に、どの程度まで、この世界超文化が国際複合企業の産物であるか測定を試みた。次に、さらに商業上の利益を増大するための文

化シンボルの吸収、その結果としての重要な意味を内在するシンボルの排除という商業的前提の上になされる文化的生産のメカニズムに焦点を移した。

さらに、音声文化的言語と視覚的文化言語間の区別を行った。即ち、過度のメディア消費からの帰結である現実との結び付きの完全な剥奪を受けた音声言語、単純化された超言語およびポップ・カルチャーのスローガンの分析である。

世界文化出現における、音声言語と比較すると、より強大な視覚メディアの影響度についても検討している。

最後に、こうした過程に私たちが影響を与え得る戦略について述べている。この戦略は、フランスの文化的例外（これは異文化に対する門戸閉鎖とその排除を意味する）と言う考え方を越え、文化的多元主義の有効かつ認知された存在への要望へと移行することの必要性から、大量生産とマスメディアにより世界的に押し付けられた文化を迂回して、望む知識に至る方法の創案に関連したテクノ・サブカルチャーの提案にまでわたっている。

2002年9月2日

Jelena DRCA

<sup>1</sup> O'SULLIVAN, T., Hartley J., Saunders D., and J.Fiskie [1983], *Key Concepts in Communication* (コミュニケーションにおける重要概念). London



給費研究員： クバト モルドバエフ  
Kubat MOLDOBAEV  
受 益 国： キルギスタン  
研究実施国： ロシア連邦  
出 生 日： 1970年3月23日  
出 生 地： キルギスタン、ビシュケク

### 最終取得学位

聖ペトロスブルグ国立大学、大学院哲学科（1992年から1995年）

### 学術業績

安全保障の政治学入門 大学講座、ビシュケク2000年

紛争学入門 キルギス語大学講座/教科書 1999年

民族の社会的記憶 聖ペトロスブルグ、学位請求論文1995年

*Interethnic conflicts and Ethnic Memory*/ “Central Asia and Culture of Peace” Journal, Bishkek, 1997, N1b.  
(民族間紛争と民族の記憶「中央アジアと平和の文化」誌N1b、ビシュケク1997年)

*The Central Asian Region Looks for a New Paradigm for Development (Conception of the Issyk-Kul Forum-97)*/ “Central Asia and Culture of Peace” Journal, Bishkek, 1997, N2-3.)

(開発の新たなパラダイムを求める中央アジア地域(イシクル・フォーラム97の創案)  
「中央アジアと平和の文化」誌N2-3、ビシュケク1997年) .

### 研究機関

ロシア連邦、モスクワ所在、民族学人類学研究所

### 研究原題

*Kyrgyz-Russian Intercultural Dialogue*

### 研究期間

2001年10月から2002年3月

### 連絡先

kubat@freenet.kg

## キルギスーロシアの文化間対話

キルギスタンとロシア間の関係の歴史は比較的浅く、18世紀から現在までの約250年間の歴史です。その主な歴史上の出来事は、最初の大使館の開設、ロシアとキルギスタン間の交易の開始、ロシア帝国への統合、帝国の崩壊、ソビエト権力の確立と崩壊、そして、最後に独立の獲得で、おそらく、ソビエト前、ソビエト期、ソビエト後の三つの主要段階に分けることができるでしょう。

このキルギスーロシアの文化間対話に関する研究を行う素晴らしい機会が、ユネスコ小渕恵三研究奨学金により与えられました。キルギスーロシア文化の社会的および文化的分析は、キルギスーロシア文化間の相互作用の基礎と機構のより良い理解につながります。この研究では、異民族グループ間における寛容の風潮の形成、市民の協調及び理解の為に死活的な重要性を持つキルギスーロシアの文化間対話の様々な側面を研究していますが、キルギスとロシア文化の相互依存と相互強化のプロセスに特に注意を払っています。そして、完了した調査を基にキルギスーロシア間の文化的関係の歴史と展望を分析しました。

この研究への参加は、私自身の研究を発展させる上で、極めて有益かつ効果的なものでした。

モスクワにおける研究者間の関係のおかげで私の大学と、私が今号と次号で編集者を務め、異文化間、異文明間対話のテーマを扱う予定のビシュケクで発行している科学教育誌「中央アジアと平和の文化」との緊密な研究提携を行うことができました。

この研究の結果は、ビシュケク財政経済アカデミーとキルギスーロシア・スラブ大学での実施が検討されている「キルギスーロシア文化間対話」にかんする試験講座の基礎になるでしょう。この私の研究を行う機会を与えて下さったユネスコ小渕恵三研究奨学金プログラムに心から感謝いたします。

2002年3月20日  
Kubat MOLDOBAEV



給費研究員： アンドレス デル カステイロ サンチェス  
Andrés DEL CASTILLO SÁNCHEZ  
受益国： メキシコ  
研究実施国： ポルトガルおよび東チモール  
出生日： 1965年9月12日  
出生地： メキシコ

### 最終取得学位

Universidad Nacional Autónoma de México  
(メキシコ国立自治大学) にて博士号取得 (2000年)

### 学術業績

*Entre Portugal e Indonesia: El surgimiento del Nacionalismo en Timor Este:*  
Revista Española del Pacífico No.11, Spanish Association for Studies on the Pacific (AEEP), Madrid, 2000.  
(ポルトガルとインドネシアの間で：東チモールにおけるナショナリズムの芽生え 太平洋地域に関するスペイン誌 No. 11 2000年スペイン太平洋地域研究協会マドリッド刊)

*1999, Timor Loro sae: Año Cero: Anuario Asia-Pacífico 2000, El Colegio de México, México, 2000.*  
(1999年暗澹のチモール海：ゼロ年 アジア太平洋年鑑2000、2000年メキシコ大学院大学刊)

### 研究機関および研究地

Universidade Nova de Lisboa Faculdade de Ciências Sociais e Humanas, LISBON, Portugal.  
(ポルトガルのリスボン新大学社会人類科学研究科)  
東チモールのディリにおける現地調査

### 研究原題

*The construction of the East Timorese National Identity, Intercultural Dialogue East Timor-Portugal*

### 研究期間

2002年1月から2002年10月

### 連絡先

casatimor@hotmail.com  
casa@servidor.unam.mx

## 東チモールの国民帰属意識の形成、 チモールーポルトガル文化間対話

東チモール民主共和国は、2001年5月20日に独立し、世界で最も新しい国となりました。

この研究は東チモールの人々の国民帰属意識形成に焦点をあてるもので、現地の人々と外部の影響、主にポルトガルの影響との相互作用を研究しています。

原典、現地インタビューそして東チモール領内での個人的経験を基に集中的歴史分析を行った後、ポルトガル文化が一特定社会、上流社会の一部の人々だけに接触しただけで、大多数の東チモールの人々には接触していないと言う結論に達しました。

この研究では、東チモール社会の国民帰属意識を分析し、長期にわたるポルトガルと東チモールの間に広まった相互作用の力学を理解しようとしています。このプロセスは、ナショナリズムが伝統的現地文化の上に構築され、以前の植民地化を行った国々の影響から距離を置こうとした同地域の他の例と極めて異なっています。この状況は、東チモールの人々の国民帰属意識をイベリアーアジア文化として、より良く理解することの必要性を求めるものであります。

2002年10月22日  
Andrés DEL CASTILLO



給費研究員： エレナ ネ グ ル  
Elena NEGRU  
受 益 国： モルドバ共和国  
研究実施国： ルーマニア  
出 生 日： 1965年12月18日  
出 生 地： モルドバ共和国ソロカ、ボロビタ

### 最終取得学位

モルドバ科学アカデミー歴史研究所より歴史学で博士号取得（2000年6月）

### 学術業績

*L'édification de la "culture soviétique moldave" en R.A.S.S.M.*

(モルダヴィア自治ソビエト社会主義共和国における「モルダヴィア・ソビエト」の建設) :  
revue Destin românesc, Chisinau-Bucharest, 2000. Nr.3.

*La création de la République Autonome Soviétique Socialiste Moldave et la détermination des priorités de la politique ethnoculturelle*

(モルダヴィア自治ソビエト社会主義共和国の成立と民族文化政策の優先順位の設定) :  
revue Destin românesc, Chisinau-Bucharest, 2000. Nr.4.

### 研究機関

ルーマニアのブカレスト所在 Academia Română Institutul de istorie „Nicolae Iorga” (ルーマニア・アカデミー歴史研究所「ニコラエ・イオルガ」)

### 研究期間

2002年1月から2002年10月

### 連絡先

casatimor@hotmail.com  
casa@servidor.unam.mx

## 平和的紛争解決の基礎としての 異文化間対話経験の理解の強化

ブカレスト、クルジュそしてヤシの様々な図書館、大学、科学センターにおいて、そして、それに続く多くの著名人とのインタビューにより行ったこの研究から、私は1990年代にルーマニアにおいて様々な民族グループの特定文化および言語的価値を保護することが可能な制度的システムが真に実現したとの結論に達しました。

このシステムは、著名な欧州の諸団体が作成した、相互の違いに対する寛容と尊重を基礎とする、こうした諸民族グループの平和的共存のための条件を定めた勧告と原則を適用したものです。

バルカンの他の諸国で民族間の衝突が噴出したのに対し、こうした新たに出現した諸問題に対し、ルーマニアは対話と合理的な妥協を含む平和的解決方法を展開することにより政治的安定性を維持することができました。

1989年以降五年以上にわたり、ルーマニアは、その全人口の7.5%を構成する一少数民族であるトランシルバニア地方のハンガリー系住民の一部の分離主義的傾向に直面しなければなりませんでした。

1996年秋のルーマニアのマジャール（ハンガリー）民主同盟（UDMR）の政府への参加は、民族間対話に建設的な役割を果たしました。二大臣および十の次官職を得、議会に36議席を獲得することにより、同同盟は少数民族の尊重政策に影響を与えることができました。

1997年、少数民族保護部門が設立され、担当大臣を長とし、総理大臣に責任を負うことになり、政府の少数民族政策の調整を行うことになりました。

1997年に施行された改定教育法により、各種学校における少数民族言語による学習の権利が与えられました。

1997年の地方行政に関する法律は、少数民族人口が総人口の20%以上を占める地方行政区画での地方政府内で、その少数民族の言語を使用する権利を正式に記しました。

モルドバの政治的変化を見ると、ルーマニアの異民族共存と対話のモデルは建設的な体験であるといえます。

2002年6月12日

Elena NEGRU



給費研究員： アレクサンドル ブ レ ア ヌ  
Alexandru BOUREANU  
受 益 国： ルーマニア  
研究実施国： スイス  
出 生 日： 1975年6月13日  
出 生 地： ルーマニア、マンガリア

#### 最終取得学位

ルーマニア、ブカレスト所在の国立演劇映画芸術大学において  
演劇論および演劇美学で哲学修士号取得2001年

#### 発表論文

演劇評論家としてブカレストで発行の“Scena”誌で数論文を執筆（2000年から2001年）

#### 研究機関

スイスのローザンヌ芸術院

#### 研究原題

*L'art et la culture comme instruments de la publicité des affaires*

#### 研究期間

2001年9月から2002年6月

#### 連絡先

alexlb@usa.net  
alexboureanu@hotmail.com

## ビジネスの宣伝の道具としての芸術と文化

現在、どの地域を研究標本として選ぶとも、現在の文化および芸術現象のグローバルゼーション（世界化）について語るができる。（・・・）

今日の欧州市場経済の多数の観念あるいは概念が、「心地よい巢」に、新たな欧州の諸傾向、「文化および演劇生産物」の「需要と供給」の市場における「販売」の新たな方法との結婚を必要とするようになった美の創造者達を支援するスペシャリスト達の絶望的な様々な試みの中に宿っている。

雇用斡旋機関が、欧州化・欧州通貨化の道具として、舞台デザイナー、ディレクターそして役者の社会的親となり、最も奇妙な仕事を斡旋しながら、例えば、何故あの役者は、我々が提示したサーカスでのライオンの調教師の仕事を拒否したのだろうか？ と言うのだ・・・（これは）我々の社会のある構成員にとっては舞台、サーカスのピエロと野獣は心理上同じ範疇を成しているからである！

さらに悲惨な事は、才能あるいは学術的業績により学位を得ることにより、プロフェッショナルとして認知を受けた人々が、例えば、さまざまな場合に、多少文化的ではあるかもしれないが、ビジネスに比重を置く実利的代理人にとっては確実に利益となる大道芸的興行といった、ありとあらゆる芸術上の妥協をしているのである！

勿論、自己の芸術の理論に基く要求にかなった生き方を自己の定められた人生とする様な昔のボヘミア的オーラの中にいる芸術家を受け入れる事は確かに困難である。

しかし、芸術家なら誰しも、そして、同時に賢明な者なら誰でも、プロフェッショナルとしての仕事に如何なる妥協も無い、そして、自己の観察力、感性そして動機を探求でき、発展させることが可能な、自己の職業に特有の新たなツールを継続して見出すことのできる環境の中で仕事をする方を好むものである。

こうして、肝心の（文化、芸術、芸術家の）問題は問われることなく、今日美の創造者は我々全員と等しい群集中の普通の一市民

に成ってしまった。

これは、警告を発すべき深刻な事態なのであるか？ それとも予期された当然の事態なのであるか？

我々の社会は、その新たな変遷の形態の中で、芸術家に新たな役割を創り出し、「給料明細票」と創造の時間に対する仕事量割当を確立し、前諸文明の諸神話を崩壊させ、芸術家の才能あるいは性能を測定可能なコンピュータさえ創り出そうと試みている。

もう自己の魂、自己の「心」を「自己の傑作」の誕生に与えなくなってしまい、魂を「現代の神」である貨幣に捧げる芸術家の才能の濫用も批判できる。

芸術家は、従って、ビジネスの推進者の役割を持った宣伝の管理職の一部として、そして、対象とする顧客に影響を与え、消費社会の生活への参加を強制させるためのプロパガンダの要素としてみられている。事実、全経済主体が今では直接、又は、間接的に、この人材、芸術家を宣伝、デザイン、メディア、あるいは、その他の分野で使用している。芸術家の新たな生活は、従って、全員に属し、ほとんどの場合において、公民の快樂の段階に留まる消費財の公僕のものである。

芸術と文化のエネルギーを交換経済のミキサーの中に注ぎ込むことは、経済学者達が生産要素と呼ぶ、決して芸術と組み合わせることのできないものの大部分を損失させ、人々の文化の美学的および価値学的質に深刻な害を与える。舞台芸術は、既に受け入れられた原則により、常に機能するであろうが、大規模な予算を必要とする。この場合、その利益という観念からは「貨幣」と呼ぶもの総てを排除する！

芸術の原則から離れようとする如何なる試みも、そのプロセスにおける如何なる代替も、「最終総生産」の価値の低下に導くことになるだろう。

2002年6月26日

Alexandru BOUREANU



給費研究員： ファル イノガノフ  
Farruh INOGAMOV  
受益国： ウズベキスタン  
研究実施国： ドイツおよびロシア連邦  
出生日： 1979年1月2日  
出生地： ウズベキスタン、タシケント

### 最終取得学位

タシケント東洋研究所にて東洋研究で修士号取得（2001年6月）

### 学術業績

*Philosophy of Islam: Research* 1997  
(イスラムの哲学 研究 1997年)

*New Era in Interreligious Dialogue: Journal "Public Opinion" No. 4, 2000.*  
(宗教間対話における新時代 "Public Opinion"誌 No. 4, 2000年刊)

*The Innovative Ideas of Djadids: Journal "Yosh Kuch", 1999.*  
(ジャディドゥの革新的考え ヨシクチ誌 1999年刊)

### 研究機関

ドイツのベルリン所在のフンボルト大学  
ロシア連邦、聖ペテルスブルグ所在のロシア科学アカデミー東洋研究所聖ペテルスブルグ支所

### 研究原題

*The Djadids' Role in the Creation of Modern Theatres in Central Asia*

### 研究期間

2002年1月から2002年4月

### 連絡先

farrukhan@yahoo.com

## 中央アジアにおける 近代演劇の創出におけるジャディドウの役割

ウズベク国民演劇は、トルコ文化とDjadid (ジャディドウ) として知られる識者達により二十世紀の初めの十年代に確立されました。この識者達は、演劇が知識を助長し、普及させる重要な手段として用いることができることを理解していました。

ロシア、アゼルバイジャン、そして、タタール演劇の到来は、二千年前の古代に形成されたウズベク民族演劇に影響を与え、その形態と内容の双方に多大な変化を与えました。社会歴史的過程の圧力の下、中央アジアにおける演劇は、古代からの演劇から欧州演劇を基礎とする演劇に取って代わられ、古くからの演劇は消滅しました。

一般的に、前世紀の最初の十年代には、演劇に対して多大な関心が示されていました。演劇に関して多くの仕事がなされ、ツアー (ロシア皇帝) 政府の公報新聞「トウルキストン・ヴィルイアトウル」 (トルキスタン地域) から始まり「サドイイ・トウルキストン」 (トルキスタンの声)、「サドイイ・ファルグホラ」 (フェルガナの声) そして「オイイナ」といった他の新聞にいたるまで、演劇を奨励し、そして、批評する記事が出版されました。

例えば、「オイイナ」の1913年8号には、「オブルポダ・テアトウル」 (ヨーロッパにおける演劇) という記事があります。その中で、西側の演劇に関する全情報、演劇に関する量的情報とその他の興味深い事実が記されています。英国、イタリア、スペイン、フランス、ドイツといった国々が多数の劇を上演していること、映画の発明、こうした内容に関するニュースを出版している新聞と雑誌も紹介されています。

こうした記事が、地元の知識人を演劇活動に参加させ、人々が演劇を楽しむのを助長しました。

2002年6月10日  
Farruh INOGAMOV

ユネスコの  
一重大関心事は、  
暴力を防止し、  
寛容と安全の  
思潮を強化し、  
そして、  
平和、  
寛容  
および  
相互理解への  
評価と同じく  
紛争の  
非暴力的解決能力の  
拡大を促進  
するための  
人格形成のための  
教育の振興  
であります。

松浦晃一郎 ユネスコ事務局長  
2003年2月26日パリにおける  
「教育と科学による平和と安全の  
推進：テロリズムに対する国連戦  
略の要素」に関する機関間会議の  
開会の辞より

旅の中で  
最も印象付けられたのは、  
戦禍、  
貧困、  
病気に  
苦しみながらも、  
雄々しく  
自分達の夢を  
追求している  
人々の姿でした。  
この経験により  
私は、  
より安全で、  
より快適な  
世界を築くために、  
人々が国境を越えて  
手をつなぐ  
必要があることを  
痛感させられました。

小淵恵三 外務大臣  
1998年5月4日  
国際会議「21世紀への展望  
—日本と東アジア—」にお  
ける演説より

## 研究員の言葉

この研究は、国内紛争および国際紛争の平和的解決に貢献するために利用できる事例研究として用いられるでしょう。

私の研究を、開発の問題に取り組み、次の時代を築く人々を信頼してくださった小淵恵三元日本国首相に捧げます。



給費研究員： ナリン ソウク  
Narin SOUK  
受益国： カンボジア  
研究実施国： オーストリア  
出生日： 1968年10月7日  
出生地： カンボジア、プノンペン

### 最終取得学位

カザン国立大学（ロシア連邦）において社会科学の研究(1988年から1993年)で修士号取得

### 学術業績

*Sociology of the Economy of Rice: Stock, Exchange Shortage, Borrowing. Case Study in Kandal Province:*  
Sociology Department, Royal University of Phnom Penh (RUPP), 2000

(米経済の社会学： 備蓄、外貨不足、借款：カンダル県の事例研究：プノンペン王立大学社会科学部 2000年)

*Process of Democracy in Cambodia:* Sociology Department, Royal University of Phnom Penh (RUPP),  
1996.(カンボジアにおける民主主義プロセス：プノンペン王立大学社会科学部 1996年)

### 研究機関

オーストラリアのシドニー大学平和および紛争研究センター

### 研究原題

*Perspectives on a Culture of Peace: A Way of Building it in Cambodia*

### 研究期間

2002年2月から7月

### 連絡先

socrupp@forum.org.kh

## 平和の文化の見直し： カンボジアにおける平和建設の道

平和は、この世界において人々が必要とする最も重要な要素の一つです。平和の不在は、ただ困窮、低開発、人命の損失、そして、他の形態の破壊をもたらすだけです。

平和建設は、各個人から始めるべきです。各個人が平安に満ちた心を維持すれば、各家族が平和に満ちた生活を送ります。各家族が平和に満ちた生活を送れば、一地域社会が、一国が平和に満ちた環境を持つでしょう。

民主主義的システムと人権の尊重は、地域社会内、国内に平和を創り出し、そして、維持するのに助ける最も重要な要素であるとみられます。

貧困、社会的不正および文盲は、平和建設を妨げる、特に平和の文化を妨げる障害です。

連帯、寛容そして協力が、平和の文化の建設過程、特に戦争により引き裂かれた国々に住む人々にとって必要不可欠です。

以下は、平和の文化を建設するために必要な要素です。

- 総ての人々に対する人権の保障
- 民主的政治システムの諸国民間における強化
- 社会的正義の可能な限りの追求
- 相互理解と法の支配による全紛争の解決
- 貧困と文盲の根絶。
- 個人間と同じく諸国民間の必要な協力

- 生徒が極めて若い年齢から紛争に対する平和的対処を習うことを可能にするための学校における非暴力的姿勢の導入
- 人々の政治的、公共の問題、および、平和と安定をもたらすことのできる非暴力的抗議への積極的参加

以下の各主体が、平和の文化の創立において重要となります。

- 個人
- 家族、特に親の子に対する関係において
- 教育団体
- 国政当局
- 宗教団体
- 開発当局と非政府団体

このオーストラリアにおける研究により、私は平和の文化に必要な要素に対するより良い洞察と理解を得ることができました。

2002年8月21日  
Souk NARIN



給費研究員： フレディ カレンガ バフワアフワア  
Freddy KALENGA BAFWAFWA  
受益国： コンゴ民主共和国  
研究実施国： コンゴ  
出生日： 1972年8月23日  
出生地： コンゴ民主共和国キンシャサ

#### 最終取得学位

コンゴ民主共和国ルブンバシ大学大学院経済学および社会学研究科（1995年2000年）

#### 学術業績

*Les contribuables et le contrôle fiscal en Droit-Positif Congolais* : Thesis 2000.  
(コンゴ実定法における納税者と財政制御 論文 2000年)

#### 研究機関

コンゴのブラザビル所在のマリアン・ヌグァビ大学法律学部

#### 研究原題

*The Resolution of Conflict: The Example of the Region of the Great Lakes in Africa*

#### 研究期間

2001年10月から2002年4月

## 紛争の解決：アフリカ大湖地域の例

国際法を研究した後、私は国際法と人権の尊重による、特にアフリカ大湖地域における、紛争の解決に焦点を当てた研究を続けています。

主にコンゴで行っている私の研究は、人の安全保障と防衛の論理面においてだけではなく、分析面においても必要とされる、より良い知識を提供するのに貢献するでしょう。

アフリカの人々自身がアフリカ大陸における紛争を平和的に解決する方法を見出せる位置に着くには、文化面を熟慮することが必要です。また、この種の研究は、持続可能な開発のための南南協力にとっても最も重要なものです。

この研究を可能にして下さった日本国政府の好意による援助に心から感謝いたします。この研究奨学金なしでは、この研究を行うことはできなかったでしょう。

2003年3月5日

Freddy KALENGA BAFWAFWA



給費研究員： アツィンバ ル ナ ベ セ リ ル  
Atzimba LUNA BECERRIL

受益国： メキシコ

研究実施国： シンガポール

出生日： 1973年3月26日

出生地： メキシコ

### 最終取得学位

メキシコの El Colegio de México (メキシコ大学院大学)にてアジア・アフリカ研究  
(1997年から2000年)により修士号取得

### 学術業績

*Vietnam: El Anuario Asia Pacifico 2000. El Colegio de México, 2000*  
(ベトナム アジア太平洋年鑑2000 メキシコ大学院大学 2000年刊)

### 研究機関

シンガポールの Institute for Southeast Asian Studies (ISEAS) (東南アジア研究所)

### 研究原題

*Towards the Construction of a Peaceful and Lasting Solution to Conflict*

### 研究期間

2002年3月から9月

### 連絡先

alunabe@yahoo.com

## 紛争の平和的、永続的解策の構築に向けて

民族紛争、そして、あるいは又、宗教紛争は、世界の全地域で常に存在しました。

今回行った研究は、アジア以外の地域でも適用可能な方法を特定するためにアジア地域に焦点を当てたものでした。

アジアにおける継続的な経済成長は、こうした軋轢を目立たなくするのを助けてきましたが、経済的、政治的悪条件により安定と成長が中断した時、古い対立が再び顕在化しました。

こうした紛争に対する平和的解決は、関係修復のプロセスを促進し、その結果、持続可能な発展を保証します。

平和に対する障害の一つは、一国内/地域内における貧困と既存の富の分配の在り方です。

一国内における異民族間に存在する文化的違いの承認と尊重は、平和共存の一前提条件です。

今回行った研究は、アジア地域において成功している紛争解決方法の中から、実施可能なものを特定し、こうした紛争解決方法をラテン・アメリカ地域における紛争に適合する方法と手段を研究することに専念しました。

この研究は、文献および専門家の研究と紛争の渦中に生き、平和的紛争解決方法を探究した人々との直接インタビューを基礎としています。

そこから、紛争の全当事者を調停する国際社会の建設的な関与が、戦争と不要な人命の損失を止める第一歩であることが明らかになりました。

2002年11月2日

Atzimba LUNA BECERRIL



給費研究員： Timur DADABAEV (ティムール・ダダバエフ)  
受 益 国： ウズベキスタン  
研究実施国： 日 本

出 生 日： 1975年4月8日  
出 生 地： ウズベキスタン、タシケント

### 最終取得学位

立命館大学大学院国際関係研究科（1998年から2001年）国際関係学博士号取得

### 学術業績

2001年 *旧ソ連・中央アジア地域統合への道*  
(*Towards Post-Soviet and Central Asian Regional Integration*) 学位論文

*Democratization and Respect for Human Rights in the Era of Globalization:*  
(*グローバル化の時代における民主化と人権尊重*)  
The UNU/IC Working Paper, June 2000.  
(2000年6月国連大学国際講座研究論文)

*Multilateral Diplomacy in Conflict Resolution: The Case of Central Asia:*  
(*紛争解決における多国間外交：中央アジアの事例*)  
The UNU/IC Working Paper, June 2000  
(2000年6月国連大学国際講座研究論文)

### 研究機関

日本の京都所在、立命館大学大学院国際関係研究科

### 研究原題

*Intercultural Dialogue as an Integral Part of Peaceful Resolution Strategy in Multiethnic Societies:*  
*The Case of Central Asia*

### 研究期間

2001年9月から2002年4月

### 連絡先

timurdadabaev@hotmail.com

## 平和的紛争解決戦略の構成部分としての異文化間対話 中央アジアの事例

今日では、紛争の本質が以前の単純なイデオロギー上の二極分裂から、異民族間、異文化間の紛争、帰属をめぐる紛争、不寛容と差別が入り混じる、より複雑なものへと変化しています。この観点から、新たな多岐にわたる平和的紛争解決の枠組みを至急構築する必要があります。

この研究では、多民族社会において異文化間対話が、この新たな平和的紛争解決/防止戦略の必要不可欠な構成部分であることの証明を試みています。この観点から、中央アジア—民族紛争、帰属および資源をめぐる紛争の脅威に曝された、過渡期にある典型的な地域—の異文化間対話を分析しています。

この研究が扱っている中央アジアにおける潜在的紛争原因には、以下のものがあります。

- 中央アジアの諸国および人々の経済的開発状態と重なった多重帰属性
- 異なる文化および宗教（イスラム教、仏教、キリスト教）の交差路に在る、こうした国々の地理上の位置と、タリバンのアフガニスタンにおける活動等にみられる残忍性と不寛容性に代表される近年のイスラム過激派運動と不寛容性の拡大
- 地域環境上の問題と安全保障上の問題の緊密な相互連結：自然資源をめぐる国家間の紛争と競合の源泉としての水等
- 中央アジア諸国間の現在未解決の領土および国境問題

この研究のメッセージは、極めて明確です。

この研究の第一部では、中央アジア各国内および同諸国間の（様々な民族、宗教あるいは文化）共同体における異文化間対話の促進により、緊張および紛争の発生を避けるための中央アジア諸国の能力を高めることに投資する方が、こうした問題が発生してから対応するよりも、より有効であることを提起しています。

従って、中央アジア諸国において、異文化間対話による平和教育と寛容性を養う教育により、同地域の人々に武力解決よりも平和的手段により自己の社会内の民族的、文化的そして宗教的違いを処理する仕組を提供することが肝心です。

この論理からの帰結として、この研究は、中央アジアにおける永続的平和が、中央アジアのジレンマに対する解決方法として、単なる一方的な（例えば、軍事的、政治的）解決方法を採用することによっては達成/維持できず、しばしば過小評価されている、市民社会教育、民主的制度および多文化主義の強化といった手段により、達成、維持されなければならないことを提起しています。

この研究の第二部では、アフガニスタンとタジキスタンにおける紛争を分析しています。この分析から、中央アジアの（民族的/文化的）共同体は、しばしば誤って、自分達の利益は他の共同体の利益と相反すると考えていることが明らかになります。

こうした人々の考えは、しばしば、ゼロ・サム・ゲーム理論に沿ったもので、一方が勝つと他方が負けることを前提としています。従って、アフガニスタン、そして、同地よりも程度は低いもののタジキスタンにおいても、ある特定の民族グループあるいは文化共同体の成功は、しばしば、他の共同体の成功を損ねるものとして考えられています。

こうした点から、この研究では、各民族的、文化的共同体が経済的に発展し、構造的に健全になればなる程、より全般的経済発展と安定性への展望が開けることを証明しています。言い換えると、様々な異なる共同体の利益が、整合的かつ互換的でありえると言う事です。各共同体の繁栄は、その隣接する共同体の成功に強く依存し、各共同体が、その隣接する共同体の成功から利益を得る事ができると言う事です。

2002年5月7日  
Timur DADABAEV

© UNESCO 2004

発行： 2004年

発行者： 国際連合教育科学文化機関  
( ユ ネ ス コ )

The United Nations Educational, Scientific  
and Cultural Organization

7, place de Fontenoy  
75352 Paris 07 SP.

印刷所： STIPA (フランス)

原本

“UNESCO/Keizo Obuchi Research Fellowships  
Programme in 2001: Results Achieved”

© UNESCO 2003

原本作成者

Farida ABOU-SHADY  
Chief, UNESCO Fellowships Section

Leila ZAS FRIZ  
UNESCO Fellowships Section

翻訳・作成

玉越 洋治

V01d

---

日本信託基金  
プロジェクト

UNESCO  
Fellowships Section  
7, place de Fontenoy  
75352 Paris 07 SP

Tel.: 33 (1) 45 68 1313  
E-mail: [fellowships@unesco.org](mailto:fellowships@unesco.org)  
Website: [www.unesco.org](http://www.unesco.org)

---